

講義コード	1116520005
講義名称	心理学A 05<春>
科目英文名	Psychology A
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	OPSY2400
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
小松 佐穂子

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他
			簡単な心理学実験・調査の実施

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	体験学習(実習、実験)	

講義・演習概要	心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。
学習(到達)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。</li> <li>子どもの心の発達と発達要因について理解している。</li> <li>日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。</li> <li>日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：心理学の基礎理論
第2回	心理学の歴史と領域
第3回	心理学の研究法
第4回	心のしくみと認知①：感覚と知覚
第5回	心のしくみと認知②：記憶
第6回	心のしくみと認知③：学習（条件づけ）
第7回	心のしくみと認知④：知能と思考
第8回	心のはたらきと行動①：動機づけ
第9回	心のはたらきと行動②：情動と感情
第10回	個人と社会①：人格・性格
第11回	個人と社会②：他者と集団
第12回	人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
第13回	人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
第14回	人の成長・発達と心理③：心の発達
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	①授業ごとにその内容に関するコメントの提出(M-Portを通じウェブ提出)を求め、授業への主体的・積極的な参加状況を確認する(20%)。 ②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。
---------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	スライド（パワーポイント）、インターネット、印刷物などを通じて授業に必要な資料を提供する。					

参考文献	・加藤伸司・山口利勝（編著）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』ミネルヴァ書房 ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（著）『はじめて出会う心理学（第3版）』有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示	・授業情報（授業課題、レポート課題など）は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	心理学の基礎理論、心のしくみとはたらき、個人と社会、成長・発達、批判的・論理的思考

講義コード	1480230002
講義名称	憲法A 02<春>
科目英文名	Constitutional Law A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	0LAW1010
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
森口 佳樹

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Aでは、人権規定を中心に講義する。
学習（到達）目標	憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション、憲法総説
第2回	基本的人権の主体
第3回	人権と公共の福祉
第4回	人権規定の効力
第5回	幸福追求権の意義
第6回	新しい人権の具体化
第7回	平等の意義
第8回	平等権をめぐる判例
第9回	思想・良心の自由
第10回	信教の自由
第11回	表現の自由
第12回	表現の自由をめぐる判例
第13回	学問の自由
第14回	経済的自由権
第15回	身体的自由権

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	10%
レポート	90%

その他	
-----	--

成績評価の方法 (コメント)	受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。 単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。
-------------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森口佳樹他	ワンステップ憲法	大学オンライン販売	978-4-7823-0546-1	嵯峨野書院	

参考文献	別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第8版」(有斐閣)
事前および事後学習の指示	講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1530630001
講義名称	マス・コミュニケーション論 01<春>
科目英文名	Mass Communication
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	COMM1400
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
戸松 幸一

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	今日私たちは、新聞、ラジオ、映画、テレビ、インターネットといったコミュニケーション・ツールに囲まれて生きている。たえず大量の情報にさらされ、大勢の人々とつながっている、あるいはつながった「気がしている」。そうした感覚は日常生活にすっかり馴染んでしまっているため、それがなかった時代を忘れがちである。本講義では、メディア社会学の知見をもとに「マス・コミュニケーション」の歴史と変遷を考察し、現代のコミュニケーションに対するリテラシーと理解を促す。 人々と情報を同時的につなぐコミュニケーション・ツールがいかなる歴史的な背景から生まれたのか。そうしたツールは人々のコミュニケーションのあり方をどう変えたのか。これらの問いを紐解いていくことによって、今日のメディア・コミュニケーションを省察的に振り返ることが本講義の目的である。
学習（到達）目標	我々が日常的に接している「マス・コミュニケーション」の成り立ちや背景を知ることによって、現代におけるメディアとコミュニケーション文化に対する学生の理解を深め、それらに対する批判的な思考力を身につける。なお、本講義は「マス・コミュニケーション」の歴史がメインであるため、各コミュニケーション・ツールの実務状況やその事例については深く扱わない。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス：メディアの定義とメディア史の意義
第2回	マス・コミュニケーション論－その起源と強力効果論
第3回	マス・コミュニケーション論－限定効果論
第4回	マス・コミュニケーション論－新たな強力効果説（前編）
第5回	マス・コミュニケーション論－新たな強力効果説（後編）
第6回	メディアはメッセージである－技術決定論と構成主義的技術論
第7回	復習および中間課題の回（必ずしも第7回で行うわけではなく、前後する場合がある）
第8回	近代とはどういう時代？－宗教革命、産業革命、そして、印刷革命
第9回	市民社会とコーヒーハウス－「市民的公共性」とはなにか
第10回	国家と国民とは？－「想像」でつながる共同体
第11回	情報化社会とメディア史－中間課題から深める
第12回	テレ・コミュニケーションの大衆化と場所感覚の喪失
第13回	最後の国民メディア－テレビは「一億総白痴化」をもたらしたか
第14回	観光の近現代－「疑似イベント」から「観光のまなざし」へ
第15回	フィードバックおよび講義のまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	中間課題30%、期末課題50%、その他を20%として成績評価を行う。 中間課題は書評（課題図書3つのなかから1つを選ぶ）。 期末課題は講義内容に関するレポート課題。 授業後にフィードバックを含めた簡単なアンケート課題を出すことがある。 出席状況およびアンケート課題の提出状況をその他20%の成績評価を行う。なお7回以上欠席した者は単位取得を認めない。
---------------	---

参考文献	佐藤卓己（2018）『現代メディア史 新版』岩波書店 吉見俊哉（2016）『メディア文化論：メディアを学ぶ人のための15話 改訂版』有斐閣アルマ  ※上記のテキストを基本的な参考文献とするが、講義の進行に応じて追加的な参考文献を適宜提示する。
事前および事後学習の指示	なるべく講義で全ての話ができるようにするが、時間的な制約上、どうしても説明不足な箇所が出てくるかもしれない。講義でわからなかった箇所は、講義後のアンケートで質問を受け付ける。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	メディア、マス・コミュニケーション、想像の共同体、大衆、公共性

講義コード	1560540000
講義名称	地域研究IIA <春>
科目英文名	Area Study II A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2460
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
塚田 鉄也

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	近代以降、ヨーロッパ諸国は積極的な対外進出を進め、世界各地の政治や社会に大きな影響を与えてきました。現在のヨーロッパはかつてほど「世界の中心」とは言えなくなりましたが、それでも、日本をはじめとする多くの国にとって重要な参照点であり続けています。本講義では、ヨーロッパ諸国の中でも特に日本人に馴染みが深く、G7の構成国でもあるイギリス、フランス、ドイツ、イタリアを取り上げ、歴史的背景、政治の基本構造、現代の争点という三点にわたって検討していきます。
学習(到達)目標	①各国の政治と社会の特徴を、歴史的背景を含めて理解し、説明できる ②各国が直面している問題やそうした問題への対応を理解し、説明できる

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ヨーロッパ研究の意義
第2回	世界の中のヨーロッパ
第3回	イギリス①：歴史的背景
第4回	イギリス②：政治の基本構造
第5回	イギリス③：現代の争点
第6回	フランス①：歴史的背景
第7回	フランス②：政治の基本構造
第8回	フランス③：現代の争点
第9回	ドイツ①：歴史的背景
第10回	ドイツ②：政治の基本構造
第11回	ドイツ③：現代の争点
第12回	イタリア①：歴史的背景
第13回	イタリア②：政治の基本構造
第14回	イタリア③：現代の争点
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	2週に1度、計7回実施する確認テスト（WebClassの「テスト」を利用）の平均点により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	二宮書店編集部	データブック・オブ・ザ・ワールド2026	学生独自購入	9784634100190	二宮書店	

参考文献	松尾秀哉ほか編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年）
事前および事後学習の指示	テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1610830000
講義名称	会計史 <春>
科目英文名	Accounting History
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	ACCT2400
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
中村 恒彦

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	会計史は、会計と会計学の発展からその原理を歴史的に学びます。会計の起源は、簿記が成立する15世紀以前と古く、18世紀以降には株式会社に関連する会計が発展し、20世紀以降には資本市場に関連する会計が発展しました。こうした一連の歴史的流れから会計の原理に広く学びます。会計がどのように現在までになりたってきたかを通じて、知識を深めます。結果としての会計の原理原則を覚えるのではなく、原因としての当時の背景に目を向けてもらえるとういと思います。その意味では、「会計」というよりも「経営」の数字のことを学習するつもりで受講するとよいでしょう。
学習(到達)目標	この授業の到達目標は、会計問題と歴史的な背景を関連付けることにより、会計技術・記帳方法・会計技法に対する深い知識を醸成することです。たとえば減価償却と取替法と減損などのように技術的にはよく似ているにもかかわらず、会計処理が異なるものがあります。こうした違いは、歴史的な経緯を踏まえれば容易に理解することができます。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	アカデミックスキルについて アカデミックなエッセイを作成する
第2回	会計のイメージ、会計はなぜ「ダルい」のか???
第3回	制度会計と企業会計原則
第4回	費用の期間配分
第5回	収益の期間配分
第6回	複式簿記と起源
第7回	資産・負債の認識・測定
第8回	中間総括と会計ダイナミズム
第9回	商品会計
第10回	減価償却、減損
第11回	引当金、準備金、積立金
第12回	資本会計
第13回	経営分析と歴史
第14回	管理会計と歴史
第15回	最終総括と個別論点

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	80%
レポート	20%
その他	

成績評価の方法（コメント）	<p>成績評価は以下のとおりの方法で主に行う予定にしています。本講義では①および②で主に評価する。</p> <p>①レポート課題 ②期末試験</p> <p>講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。</p>
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	野口昌良ほか編著編著	会計の歴史	大学オンライン販売	978-4502336713	中央経済社	
2.	川本 淳, 野口 昌良, 勝尾 裕子, 山田 純平, 荒田 映子	はじめて出会う会計学 第三版	学生独自購入	978-4-641-22197-0	有斐閣アルマ	

事前および事後学習の指示	財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。さらに、歴史を勉強する際には、世界史や地理の知識があると楽しく講義を受講できる。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	財務会計・会計学総論

講義コード	1620320000
講義名称	経営史A <春>
科目英文名	Business History A
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA2440
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
小島 正稔

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	<p>経営史は、企業の経営の仕方がどのように発展し変わってきたかを扱っています。その経営の仕方の視点は、個別企業を分析する視点、企業家的（企業家活動的）視点、企業のスタートアップ（誕生）・事業の創造、産業の形成などの視点があり、地域を日本やアメリカに限定するもの、地域間比較するなどさまざまです。この講義では、多様な視点から、現在の企業と企業社会が作られてきた過程を史的に考察することで、現在の企業社会の仕組みを理解することを目的にします。</p> <p>講義は個別企業のケースとそれを題材にした学習テーマから構成されます。企業の経営や時代を理解するため、関連した映像資料などによって、過去の経営状況や経営環境を理解した上で、講義では考えながら企業の経営について学びます。</p>
学習（到達）目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業の経営上の課題を、時代背景とともに説明できる。</li> <li>2. 企業家活動の源泉について、具体的な企業家を例に説明できる。</li> <li>3. ビジネスシステムの発展について具体的な事例によって説明できる。</li> <li>4. 企業文化、経営理念を具体的な事例によって説明できる。</li> <li>5. 産業の成立と法規制の関係について、具体的な事例によって簡潔に説明できる。</li> </ol>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	講義のガイダンス 講義の内容、課題への取り組み方を含めた講義への参加の仕方について説明します。
第2回	小林一三と都市型ビジネスの成立（小林一三）
第3回	都市型事業の展開と経営の多角化(阪急電鉄) ①範囲の経済と成長の経済、②生活の洋風化
第4回	戦後の消費社会と市場形成 ①市場と消費者の変化、②経済成長と消費革命
第5回	大衆消費社会の出現と家電ブーム ①大型化・高級化の時代、②余暇時代、③個性化・多様化の時代 ④消費と市場変化、⑤商品開発の連鎖、⑥余暇時代の市場変化
第6回	衆消費社会と松下幸之助の経営理念 ①3つの家電メーカー、②松下幸之助の経営哲学
第7回	松下電器産業（創業から家電ブームまで） 松下電器の経営発展
第8回	ナショナルショップ-流通系列化と系列小売店の機能 ①連盟店制度の創設、②正価販売、③熱海会議の位置づけと役割、④ナショナル共栄会、⑤ナショナルショップ店会、⑥主要家電メーカーの系列化
第9回	松下電器産業の組織変革（組織の革新と再生） ①事業部制の採用と経営者育成、②組織論の適応
第10回	革新的企業家 一町工場からの事業展開 -（ソニー） ①井深大の経営哲学、②革新的企業家活動の主体的条件

第11回	革新的企業家 一町工場からの事業展開－（ソニー）（2）盛田昭夫と経営発展
第12回	ソニーの経営理念から経営理念の本質を学ぶ ①企業理念とは、②なぜビジョンが必要なのか、③創業期のビジョン、④転換期のビジョン ⑤東京通信工業株式会社設立趣旨書を詳読する
第13回	ナショナルショップ－流通系列化と系列小売店の機能（3） ⑤ナショナルショップ店会、⑥主要家電メーカーの系列化
第14回	革新的企業家としての本田宗一郎 ②本田の商品開発
第15回	講義の理解度の確認とまとめ（経営史から学んだこと）

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	<p>試験はすべて講義の内容的な区切りの段階で行う。成績は試験の得点と課題点（課題点は追加）によって決める。試験の回数は、進行状況によるが原則36回行う。（回数はあくまで進行状況による）</p> <p>課題はオンラインで課題ビデオを見て答えるものなどを含めます。</p> <p>成績は上記を基本にしますが、講義に積極的に参加し、発言や質問をしたものには、発言点を追加することもあります。毎回レジュメを配布します。テキストは使用しません。試験を複数回、受けないものは採点の対象としない（X評価）</p>
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	小島正稔	経営史講義のレジュメ	プリント配布			

参考文献	<p>1からの経営史 宮本 又郎（編集）、岡部 桂史（編集）、平野 恭平（編集）中央経済社 ディッキー『フランチャイズिंग－米国における発展過程－』河野、小島正、まほろば書房 1992年。</p> <p>川辺信雄『新版 セブンイレブンの経営史』有斐閣、2003年 宇田川勝・生島淳『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011年 宮本又郎・岡部桂史・平野恭平『1からの経営史』碩学舎、中央経済社、2014年</p>
事前および事後学習の指示	事前学習 レジュメをダウンロードし、参考文献などで指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	都市型ビジネス、消費社会、市場形成、革新的起業家、経営理念

講義コード	1770020000
講義名称	アジア文化史A <春>
科目英文名	Cultural History of Asia A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2500
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
辻 高広

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。
学習(到達)目標	現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	中国史概説1―古代～中世
第3回	中国史概説2―近世～近現代
第4回	漢字の歴史1―漢字の誕生
第5回	漢字の歴史2―漢字の成立
第6回	漢字の歴史3―漢字の伝播
第7回	漢字の歴史4―漢字の変容
第8回	漢字の歴史5―漢字の現在
第9回	女性の歴史1―神話のなかの女性
第10回	女性の歴史2―漢代の女性
第11回	女性の歴史3―唐代の女性
第12回	女性の歴史4―宋代の女性
第13回	女性の歴史5―明清代の女性
第14回	女性の歴史6―チャイナドレスと近代女性
第15回	まとめ―東アジア世界のつながり

## 成績評価の方法(割合)

「成績評価の方法(コメント)」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	40%

その他	20%
成績評価の方法（コメント）	期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。
参考文献	尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年 講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～2005年
事前および事後学習の指示	授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1A10370000
講義名称	世界の市民-保育を考える <春>
科目英文名	World Citizen-Consideration on Childcare
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
伊藤 潔志

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	2017年4月に保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定・改訂され、2018年度から実施されています。しかしその後も、少子化問題・待機児童問題・子育て支援など乳幼児をめぐる問題は、常に日本の重要課題でした。この講義では、保育に関わる原理的なテーマを考察し、それを踏まえ現実の保育において「保育とは何か？」を考え、あるべき未来の保育を展望していきます。
学習（到達）目標	① 保育の思想について理解する。 ② 保育の歴史について理解する。 ③ 保育の制度について理解する。 ④ 保育の現状と課題を理解し、保育の未来について考えることができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	保育の制度
第3回	保育の本質
第4回	保育の思想・歴史
第5回	保育の目的
第6回	子どもとは何か
第7回	発達とは何か
第8回	遊びとは何か
第9回	家庭とは何か
第10回	保育の方法
第11回	保育の内容①：満3歳未満
第12回	保育の内容②：満3歳以降
第13回	保育の課題①：子ども・子育て支援
第14回	保育の課題②：少子化・待機児童問題
第15回	保育の課題③：家庭・保育施設の問題 まとめ（保育の未来を考える）

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価は「レポート」（30%）と「授業課題」（70%）を基に総合的に判断する。</li><li>・提出物はすべてM-Portを通して提出する。</li><li>・2回のレポート提出と10回以上の出席を単位認定の基本条件とする。</li></ul>
---------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	伊藤潔志編著	哲学的な考えをいかす 新・保育原理	大学オンライン販売	978-4909378620	教育情報出版	2,300円

参考文献	<ul style="list-style-type: none"><li>・伊藤潔志編著『哲学する保育原理』第2版、教育情報出版、2021年。</li><li>・厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル観、2018年。</li></ul>
事前および事後学習の指示	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前学習：教科書を読んでおくこと。</li><li>・事後学習：授業ノートを確認しておくこと。</li></ul>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1N06040000
講義名称	日本法制史A <春>
科目英文名	Japanese Legal History A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW2590
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
的場 かおり

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)

講義・演習概要	<p>表現の自由、思想・良心の自由、罪刑法定主義、無償の義務教育、学問の自由・・・。普段みなさんが学ぶ現行法の講義では「当たり前」のものばかりです。でもこれらが登場したのは「明治」以降、いわゆる「近代法」が日本に誕生してからのことなのです。ちょんまげが切り落とされ、ガス燈が街を照らし、工場が煙を吐くようになった「明治」は法の世界にも大転換をもたらしました。</p> <p>講義では、日本が西洋法をモデルに達成した「法の近代化」を共通テーマに、憲法および刑事法に関連する分野が日本でどのように生成・展開したのかを学習します。</p>
学習(到達)目標	<p>①「歴史で法を読み解く力」が身につきます。高校までに学んだ「歴史」を「法」の観点から見直すことで、現行法の「基礎」がどのようにして形成されたのかを理解し、現行法の基礎知識をより深めることができます。</p> <p>②「比較する力」が身につきます。時代や国・地域の比較を通して、多面的・相対的に法・制度を考察し、現行の法・制度の抱える問題を解決できるようになります。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方・成績評価・講義の目的）
第2回	条約改正と西洋法の継受
第3回	国家機構と官僚制
第4回	憲法制定前史①自由民権運動と私擬憲法
第5回	憲法制定前史②伊藤博文の憲法調査
第6回	憲法①大日本帝国憲法の制定とその特徴
第7回	憲法②大日本帝国憲法から日本国憲法へ
第8回	刑法①法典編纂の先駆け
第9回	刑法②旧派・新派と法典編纂
第10回	警察法制
第11回	治安法制①治安立法とは
第12回	治安法制②法整備と運用実態
第13回	学校・教育法制①諸学校令と勅令主義
第14回	学校・教育法制②国体概念と教育
第15回	試験およびまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	①試験90%：最終試験の成績を評価します。 ②その他10%：講義への貢献（講義内での発言、コメントシートの提出など）を評価します。
---------------	--

参考文献	<ul style="list-style-type: none"><li>・岩谷十郎・松園潤一郎・高田久実編著『よくわかる日本法制史』（ミネルヴァ書房、2025年）</li><li>・伊藤孝夫『日本近代法史講義』（有斐閣、2023年）</li><li>・川口由彦『日本近代法制史〔第2版〕』（新世社、2015年）</li><li>・山中永之佑編『日本近代法案内一ようこそ史料の森へ』（法律文化社、2003年）</li></ul>
事前および事後学習の指示	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・配信されたレジュメおよび資料にしたがい、指示された事前学習に取り組む。</li></ul> <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・解説に用いられたスライド資料を確認しながら、講義内容をリフレクションする。</li><li>・参考文献などを用いて、自分の関心を掘り下げるとともに、自分の意見をまとめる。</li></ul>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	明治維新、不平等条約、お雇い外国人、大日本帝国憲法、罪刑法定主義、検閲、治安維持法、教育勅語

講義コード	1P68009001
講義名称	現代社会と科学技術<春>
科目英文名	Contemporary Society and Technology
開講責任部署	
代表ナンバリングコード	000GE102
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
柴 恭史

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)	ディベート(討論、討議)

到達目標	<p>本科目においては、現代社会において取り上げられることの多い科学に関する話題について、その基本的な内容を理解し、社会の問題意識を認識できるようになることを目標とする。</p> <p>くわえて、そのための技能として、以下の能力を習得することを目標とする。</p> <p>①大学生に求められる科学的知見の検索・収集方法を理解し、自ら行うことができる。</p> <p>②それらの知見の適切な参照方法・引用のマナーを理解している。</p> <p>③収集した情報・知見をもとに、（他者と協働して）自らの意見をまとめ主張することができる。</p>
授業概要	<p>本科目では、現在の科学において、特に社会的に話題になりやすいいくつかのテーマについて取り上げ、それらの基本的な知識と論点について解説する。社会的に話題になりやすい問題とは、単に科学的な知識だけでは解決できない問題でもある。それらはときに倫理的な側面や経済的な側面から、（クローン技術のように）科学技術として実行できるか以上に人として実行してよいかの問題となる。したがって、科学的な話題・ニュース等を理解するうえでは、単なる知識だけでなく、そうした社会の価値観等を理解しておくことも重要である。</p> <p>この授業では、科学的知識を解説するだけでなく、上記のような価値観の問題まで含めてディスカッションを深めたい。</p> <p>また、こうしたディスカッションを含め、大学生としての学習活動・研究活動を進めるにあたっては、適切に情報技術（IT）を活用しながら情報を収集し活用することが求められる。</p> <p>本科目では、授業テーマとしての科学技術だけでなく、技能として科学技術を活用する力も学習していく。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「科学と社会 科学的知識だけで社会問題は解決するか？」</p> <p>第2回 論理的なディスカッションーディベートの手法</p> <p>第3回 環境問題とエネルギー 持続可能な開発とは何か（1）</p> <p>第4回 環境問題とエネルギー 持続可能な開発とは何か（2）</p> <p>第5回 情報の検索の仕方を理解する（1）インターネットを用いた情報検索</p> <p>第6回 情報の検索の仕方を理解する（2）図書館を用いた情報検索</p> <p>第7回 情報の検索の仕方を理解する（3）文献の参照と引用</p> <p>第8回 宇宙開発と関連技術 宇宙進出の意義と社会的課題（1）</p> <p>第9回 宇宙開発と関連技術 宇宙進出の意義と社会的課題（2）</p> <p>第10回 論理を構築する（1）論理的な考え方をする</p> <p>第11回 論理を構築する（2）主張を文章化する</p> <p>第12回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか（1）</p> <p>第13回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか（2）</p> <p>第14回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか（3）</p> <p>第15回 社会の中の科学 自己の学びとの関連</p>
教科書	授業内で適宜資料を配布する。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
評価方法	授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度60%、 期末レポート40%

既修  
条件

なし